

根来山げんきの森倶楽部

令和4年10月作業日誌



芸術の秋、読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋…秋は色々な表現で表されますね。げんきの森では紅葉の秋、実りの秋を迎え小鳥たちは楽しそうにさえずっています。

今月の活動は清々しい秋晴れの中、げんきの森の匠たちの技がさえわたりました。

活動日：令和4年10月16日(日) 9:30～15:30 天気：晴れ 倶楽部員：40人

美しい蝶が応援にきて・・・

炭出し

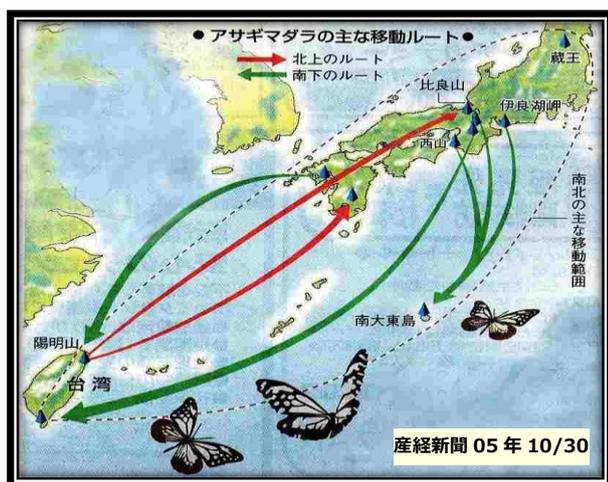
本日は9月21日に炭材の窯入れした後、26日まで6日間かけて焼かれた炭を、窯から出して袋詰めにする作業です。この日は11名の参加者(男性6名、女性5名)で行いました。私を含め、初めての参加者が4名いました。

この日のために私は、服装を黒で揃えて来ました。現地まで車で乗り合わせて到着すると、既に先輩が作業スペースにブルーシートを敷いてすぐにも作業に取りかけられるように、簡易の椅子やノコギリ、袋などを準備してくださっていました。

リーダーから作業の説明がされていよいよ活動開始。窯の入り口付近にはコンテナがお行儀よく1列に並べられてゆき、真っ黒に焼かれた炭が次々と丁寧にコンテナに入れられて作業スペースへと運びだされて行きます。運び出された炭はノコギリで約10cmの長さにカットし、袋へ詰めます。袋の中が炭で8割くらいになったら、重さを量るため袋を量りの横へ…10kgに計量調整されて紐をかけて完成！先輩方は手慣れていて、それぞれの作業を分業して流れるように進んでいる中、戸惑いながら私は炭を切り出して袋詰めをしていきました。重鎮Oさんの「わからん事あったら遠慮なくきいてよー。」との気さくなお声かけに、不安な私はいろいろと質問できて楽しく作業ができました。

今回できた炭は240kg、全部で24袋でした。お昼休み、ひらひらと1匹のアサギマダラがやってきて炭窯あたりを何度も行ったり来たり…まるで私達のお仕事を労ってくれているように感じられ、とても癒されました。

みなさまお疲れ様でした。先輩方、ご指導ありがとうございました。次回はもう少し手際よくできるように頑張ります。(藤原 美佐子)



げんきの森ペディア
～渡りの蝶 アサギマダラ～
マダラチョウ科

ほぼ日本全国に分布

左図のように、成虫は春から夏にかけて南から北へ移動し、移動先で世代を重ねた後、秋になると南へ移動します。

土仏線沿線 支障木伐採

げんきの森の管理棟に至る道路沿いでは、ここ数年でカシノナガキクイムシによる枯れ木が急増していて、葉を付けたまま立ち枯れした木が目立っています。ほかにも道の上方に枝を伸ばしたり道に向かって傾いたりした立木があり、このような危険な木を伐採して片付ける作業を行いました。

道に沿って電線が通っているので、伐った木を電線の方に倒さないように慎重に、危険がある場合はロープを掛けて引っ張って倒しました。

倒した木類は炭材として利用するため、枝を落として利用出来る部分を 1.2m の長さに切って道端に集積しました。今回は作業に慣れた人たちが多く、よってたかって作業をしたので、伐った木はあっという間に片付いてしまいました。

伐採の時は道の上に監視を置いて、交通整理をしながらの作業でした。当日は天気もよく、一般のお客さんなど自動車の往来がとても多かったので、何度も手を止めたり、お客さんに待ってもらったりしながら大変でしたが、安全に注意しながら作業しました。

伐採が終わった箇所は周囲がスッキリと明るくなって、もう少しで道路からの見晴らし抜群?になりそうです。

枯れ木はまだまだ数多くあってさらに増え続けているので、今後も気の長い作業になりそうな予感です。（古澤 祐史）



大木のカットに大苦戦しながら

うるし谷整備

本日は秋晴れの良天気の下、女性 1 人と男性 9 人で作業に当たります。谷に小さな川が流れています所に、橋といってもごく簡単な細い丸太 4~5 本で作った橋を本格的な橋に作り替えることにします。こんどは板と角材で立派な橋ができました。森のようちえんのお子さんも安心して遊ぶことができます。私たちが荷物を持つ時には楽に通れます。

次は大変な作業です。先日 T さんがエノキの大木で伐採してくれたものの整理ですが、チェーンソー 2 台とあとは小型のチェーンソーとのこぎりで小枝処理です。根元が 70 cm もある大木です。上で二股になっているこれも 50 cm もあります。50 cm のものを小間切れにカットするのですが、とてもかた



い木です。チェーンソーでもかたくてよく切れない、無理です。あと少しのところまでチェーンソーが食い込んでしまいました。クサビを打ち込んでもびくもしません。ロープを 5 人で力を込めて引けどもダメで、それならばと反対側にテコを入れて同時に力を入れて引くとうまく切り落とすことが出来て、チェーンソーも無事取れました。

懸案の川の名前は 'コブシ川' となりました。本日は皆さま長時間有難うございました。

（吉田恒臣）

ヒノキ谷歩道

本日は10名が参加。ほとんどの方が9月の活動日からの引きつづいての作業です。

けっこう高い位置に取り付けていた橋の老朽化のサイクルが早くてこれまで何度か補修しながら使っていたのですが、橋げたの状態も心配な感じになり、路肩の一部が崩れたこともあって、今回、以前からの構想にあったルートに道を付け替えることになったのです。新しいルートはワサビ園を過ぎてすぐの比較的低い場所から川を渡ることにして丸太二本を組んだ橋を設置し、右岸の川沿いを整地し、土留めの横木、木の階段、それに川を渡り返す橋（これは丸太を3本組んだもの）を取り付けて従来の道に合流させ、ひのき谷に進入していくというコースです。

付け返し区間が短かったとはいえ、補修と違い新しい道を付けるのはなかなか大仕事です。現場調達の太いスギの伐採、伐採木を所定の位置へ運ぶための架線張り、材の引き回しなどの作業はボランティア活動を超越した感があり「みんなすごいなあ～、さすがげんきの森!!!」と今さらながら感心することしきり。

ヒノキ谷を巡る道はこれまでも土砂崩れで通行不能になったり橋が壊れて何度もルート変更してきました。この新しい道もこまめなメンテナンスを余儀なくされることとは思いますが、本日、知力と体力を駆使して作業に取り組んでくださったみなさん、お疲れさまでした。（水口 和子）



巣箱の中に何があるかな？



鳥の巣箱外し

鳥の巣箱を取り外す作業に参加しました。取り外すのに使う道具は、竹の先に枝がついているものや、竹の先にのこぎりがついているものや、普通の竹がありました。

手づくりの森の巣箱をとるとき、最初は空の巣箱が多かったけど、その後、中にコケや毛のようなものが敷き詰めてあり、空の卵が4,5個ぐらい入っているものもありました。それは、ひなが巣立ったものではなく、親鳥がひな鳥を最後まで育てず放っておいたものだそうです。多分シジュウカラか、ヤマガラ卵と言っていました。

私が見た中では、巣立ったものは3つありました。ヤモリが入っている巣箱や、クモが入った巣箱もありました。親鳥の死体が入っている巣箱もありました。管理棟にある巣箱は、巣立っていました。

あけるとときにドキドキして、とても楽しかったです。（小学4年生 宮芝 実里）



今年は、巣立ち率が低いそうです。ちょうど子育てのシーズンにエサが少なかったのかな、と。豊かな森のように思うのに、そんなこともあるんですね。（宮芝 真弓）



古い巣箱を外して・・・



中身をチェック



卵のカラ発見！！



げんきの森の炭焼職人？が丹精込めて作った炭！！



コバノガマズミ

今年の秋は木の実が豊作です。アケビ、クリ、オニグルミなどは終わってしまいましたが、大木に巻き上がる緑のツルにはサツマイモ色に熟したムベの実がぶら下がっていますし、サネカズラの特徴的なぶつぶつの実も赤く色づき始めています。

歩道にはコナラのドングリがたくさん落ちていますし、コバノガマズミが真っ赤な実を、ナツハゼが紺色の実をたくさん付けていて、両方とも今が食べ頃。和製ブルーベリーのシャシャンボも紺色に色づいていますが、甘くなるのはまだ少し先でしょうか。

野生の樹木の実には表年と裏年があるようですが、今年の里山は表年のようで、野鳥や動物たちも食べ物には困らなさそうです。

豊かな里山の秋がやってきました。(岡田 和久)



げんきの森ペディア
～山の黒真珠 ナツハゼ～
ツツジ科スノキ属
夏に葉っぱが「はぜの木」の葉のように紅く紅葉することから、「夏はぜ」と命名されました。生食のほか、ジャムや果実酒などに加工されます。